

認知症予防のおもちゃ

Toys of dementia prevention

田畑孔暉 指導教員 氏家和彦
サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 生活文化マネジメント研究室

これからの日本では、高齢者が増えていく事が判明しています。そんな生活環境に対して、高齢者の認知症は大きな社会問題になりつつあります。そこで、本研究では、増加していく高齢者が健康的な生活を送る事ができるように、認知症等病の原因と予防するための手法を調べて、身近な環境の中でできる対策を考えていきます。特に親しみやすく、手軽なツールを考え、高齢者施設において活用されるツールを提案していきます。

キーワード：だるま、福笑い、ダンボール、認知症

研究概要

これから増加していく高齢者が、健康的な生活を送る事ができるように、認知症予防対策として、様々なシーンで手先を使いながら楽しめるツールを考える。

研究目的

増加しつつある高齢者の認知症などの老化現象と、その問題に対して、身近な生活や高齢者施設などでも使用できる認知症予防のためのツール提案を試す。

調査検査

認知症の原因について調査しました。

認知症とは

認知症は、色々な原因で脳の細胞が死んで、働きが悪化し、様々な障害が起こり、生活する上で支障が出ている状態の事を指します。

将来の認知症

2012年の認知症患者は約462万人に上る事は厚生労働省研究班の調査で明らかで、認知症の軽度認知症患者も400万人と推測されており、2025年の認知症患者は、軽度の患者を加えると、約1,300万人となります。(図1)

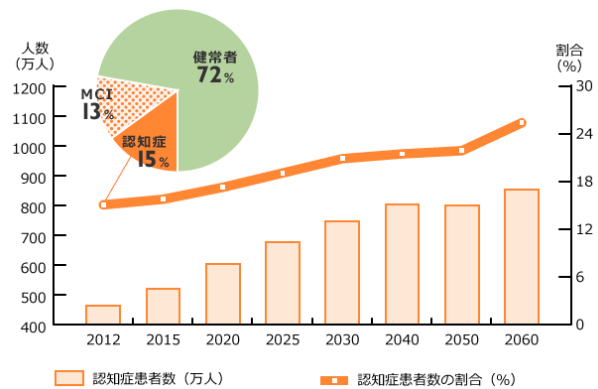


図1 日本における認知症の高齢者人口の将来推計のグラフ

認知症の予防方法

生活習慣病を予防し、手作業など体の一部を使う活動や作品と記憶が残る記憶行為、同じ取り組みをする仲間と交流する事が予防には効果的です。

コンセプトおよびアイデア展開

コンセプト

楽しみながら、気軽に誰でもできる老化予防使用しながらコミュニケーションがとれて、誰でも知っている遊びの中から、年齢に関係無く、ひとりでも複数人でも楽しめる、福笑いのだるまを取り上げました。仲間や家族との交流の中で、指先を使いながら笑い合う事で、脳を活性化し、認知症を予防していくためのアイデアを考えました。

材料と形

身近で、誰でも触れた事がある材料の中から、段ボール・新聞紙などの紙を活用して、試作品を製作しました。

だるまの形

出来あがっていく顔の表情を見て、笑い合いながら、複数人でも楽しめるように、通常の丸形だるまではなく、半生多面体の切頂八面体^(図2)を採用しました。一体の中に3面の顔を作り、同時に使用出来るように考えています。

福笑いの顔

簡単につけ外し出来るように、試作品では磁石を利用しています。



図2 試作品 立体福笑いだるま

現段階での最終提案

今後の提案では、今の大きさをより大きくし、顔の表情パーツの種類も大きくしながら、使いやすくなる計画を立てています。

今後の展開

試作品を、高齢者施設で実際に使用してもらい、高齢者やケア担当者の方々にその印象や使ってもらった感想などの聞き取り調査を行い、さらにアンケートへご協力していただき、大きさ、形状など、ツール全体形状とデザインを改善していく予定です。

参考文献

・認知症ねっとの公式：

<https://info.ninchisho.net/>、2018年04月23日閲覧

・Teachme：高崎だるまの作り方、

<https://teachme.jp/contents/15630/>、2018年09月12日閲覧

・Wikipedia：切頂八面体、

<https://ja.wikipedia.org/wiki/切頂八面体>、2018年09月08日閲覧

・アクティビティおもちゃの公式：

<http://goodtoy-guide.com/?mode=f3>、2018年09月12日閲覧

・小学館：ロングセラーの立体福笑い「ミスターポテトヘッド」

<http://dakko.jp/2013/06/mimidakko-201306-latest-01.html>、2018年05月07日閲覧

・もらくらし：新しい日本のお土産 組み立てだるま KD DARUMA

<http://molakurashi.molago-labs.com/products/2518/>、2018年09月12日閲覧

・LIFULL介護：認知症を予防するには？ 食生活や行動のポイント

<https://>、2018年09月12日閲覧